



# レスキューロボットコンテスト ご寄付のお願い

阪神・淡路大震災の教訓を未来へ

## 技術を学び、人と語らい、災害に強い世の中をつくる

1995年、がれきの下で助けを求める声に、技術は届きませんでした。その悔しさと教訓を未来につなぐため、2000年に始まったのが、「レスキューロボットコンテスト（レスコン）」です。

これは単なるロボット競技ではありません。「やさしさ」という概念を工学に組み込み、次世代の防災・減災技術とそれを支える「人」を育てるプロジェクトです。

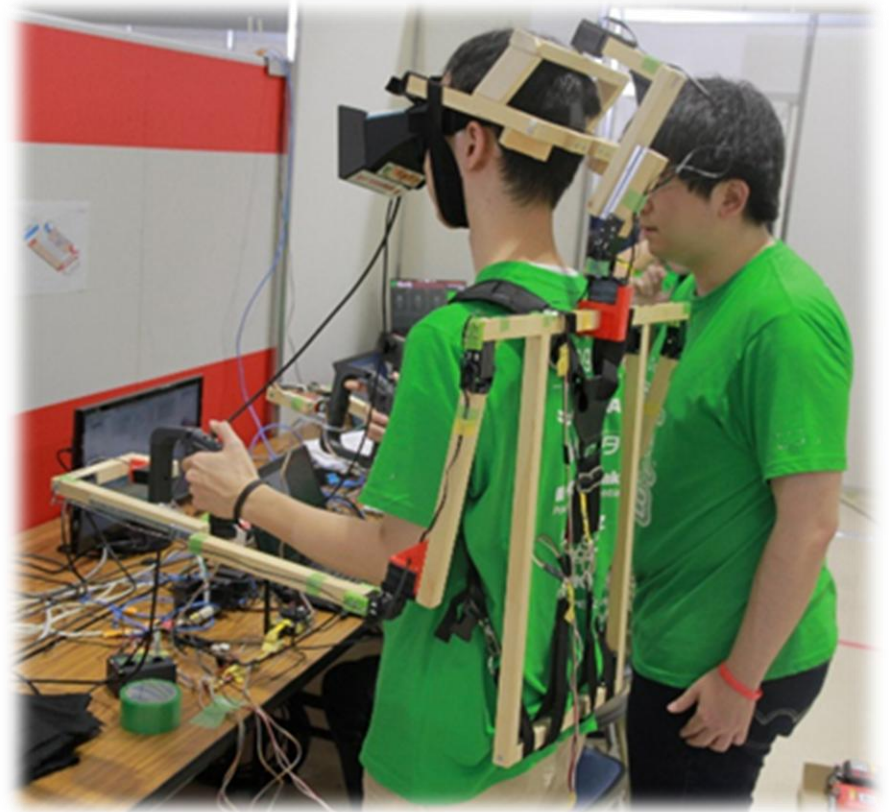
阪神・淡路大震災から31年。災害に強い社会の実現につながるレスコンの継続的な開催のために、格別のご支援をお願い申し上げます。

## レスコン2026 競技会本選

日程：2026年8月8日（土）・9日（日）

場所：しあわせの村 体育館（神戸市北区）

URL: <https://www.rescue-robot-contest.org/>



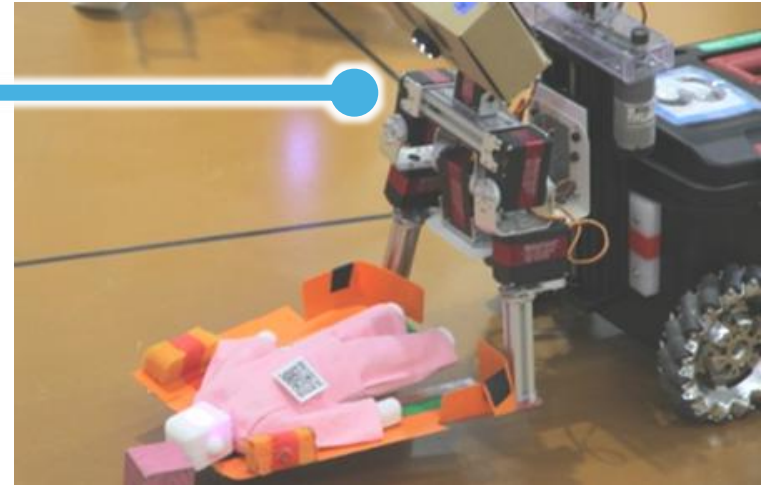
レスキューロボットコンテスト実行委員会・  
一般社団法人レスキューロボットコンテスト

2026.2.16版

# 「戦い」ではなく「救助」



現場が見えないコントロールルーム



1/4スケールのテストフィールド

## 見えないロボットを 「遠隔操縦」

参加者は壁に隔てられ、現場を直接見ることはできません。搭載カメラの映像だけを頼りに、ロボットを操縦する技術やアイデアが求められます。

## 要救助者人形 「ダミヤン」

助けるのは「苦痛（圧力や振動）」を感じるセンサーを内蔵した人形です。速さだけでなく「どれだけやさしく救助できたか」がポイントとして評価されます。



## 複数ロボットの 「チームワーク」

異なる条件の部屋に要救助者人形が3体。複数のロボットが分担・協力して迅速な救助を行います。人間側のチームワークも重要です。



# レスキューロボットコンテスト ご寄付について

1. **ご支援を受けて行う事業** :レスコンと関連行事に要する経費  
(会場等設営、実施運営に関する経費)
2. **寄付金額** : 1口1万円よりお願いしております。
3. **受付期間** : 年間を通じて受け付けております。
4. **本法人(一般社団法人)へのご寄付に対する税制優遇措置**  
個人の場合: 控除の対象になりません。  
法人の場合: 一般寄付金の損金算入限度額の計算の枠内で一定額まで損金算入できます。
5. **ご支援の申込方法および手続き**
  - (ア) **ご支援のお申込み先**
    - ・ Web フォームからのお申込み : 右の QRコードを読み取り  
必要事項をご記入いただいた後、送信してください。  
(<https://www.rescue-robot-contest.org/contest/common/support>)
    - ・ それ以外のお申込みをご希望される場合 :  
下記の間合せ先にご連絡をお願いいたします。
  - (イ) **ご寄付の送金手続き**  
ご寄付のお申込みを確認した後に、振込先の口座情報をメールでご連絡いたします。



レスコンの継続開催と発展のために格別のご支援をお願い申し上げます。

お問い合わせ 一般社団法人レスキューロボットコンテスト Email: [corporation@rescue-robot-contest.org](mailto:corporation@rescue-robot-contest.org)

# レスキューロボットコンテストから社会に役立つロボットの開発へ

レスコンから巣立った技術者が消防用ロボットを実用化し、  
競基弘賞を受賞しました！

## NPO法人国際レスキューシステム研究機構 第二十一回競基弘賞技術業績賞

### 「高温環境に対応した監視点検用クローラ ロボットARTHURの消防応用」

渡邊 彩夏(わたなべ あやか)さん



- 2015年 愛知工業大学工学部  
機械学科卒業
- 2017年 愛知工業大学工学研究科  
博士前期課程修了
- 2020年 愛知工業大学工学研究科  
博士後期課程満期退学  
サンリツオートメーション  
株式会社入社

消防向けロボットや監視点検用ロボット(ARTHUR)  
をはじめとしたクローラロボットの開発に従事

レスコンから巣立った渡邊さんが、消防用ロボットを実用化し、その実績が評価され、2026年1月10日に受賞しました。渡邊さんは、愛知工業大学の出身で、在学時にはレスコンに参加(2011～2014年、長湫ボーダーズ チーム)、その後2015～2021年には、レスコンの運営にも参画されました。また、奥川 雅之教授(前レスコン実行委員長)の研究室に所属し、大学院へ進学して、レスキューロボットの研究に取り組みました。現在は、サンリツオートメーション株式会社においてロボット開発に携わっておられます。大学時代から、継続して研究開発してきた消防用ロボットが、2025年12月に豊田市消防本部に導入されました。(全国初)

本受賞は、ご当人のこれまでの取り組みが評価された結果であり、大変喜ばしい出来事です。また、レスコンとしても、その目的の一つである人材育成の成果を示すものと考えています。

